

美唄麦作営農組合の経営概要

1 美唄市の概要

空知地方の中央部に位置し、石狩川東岸沿いに発達した水田地帯である。その土壤のほとんどが泥炭と呼ばれる寒冷地特有の湿地帯が多い。

水田率は92.7%に達し、水稻が栽培されているのは約5割にとどまり、転作（小麦と大豆の輪作）が大々的に行われている。



美唄麦作営農組合

2 集団の経営概要

構成員全員が全面転換畑であり、小麦栽培に意欲的である。

表1 輪作体系と作付状況

経営規模	輪 作 体 系					輪 作 の 特 徴
77.39ha	H 23	H 24	H 25	H 26	H 27	大豆1年小麦2年とし大豆間作小麦に積極的に取り組んでいる。なたね栽培にも取り組んでおり、小麦、大豆、なたねで輪作を行っている
	小麦	小麦	大豆	小麦	小麦	

3 小麦の生産状況

麦作営農組合は、経営面積の約6割以上の小麦を栽培している。平成27年産の10a当り収量は704kgとJA管内のトップを保ち、当地域の目標とされている。また、出荷された麦については、全量1等と高品質な小麦生産を実現している。ただ、今年産の品質測定値では、タンパク質含量が基準値を上回った。

表2 最近3年間の小麦生産状況

年 産	小 麦 品 種 名	小麦栽培 面積 (ha)	麦作率 (%)	収 量 (kg/10a)		規格外 含む収量 (kg)	1等麦比率 (%)	
				集 団	市平均		製品(1等 +2等)に 対して	規格外含 む総量に 対して
H25	きたほなみ	56.5	73	492	354	489,679	100	88.7
H26	きたほなみ	49.8	64.3	564	457	506,580	100	94.0
H27	きたほなみ	49.4	68.7	704	*328	634,522	100	91.7

*H27年産市平均収量は、H20年産からH26年産の7中5の平均とした。

表3 品質測定値

容積重 (g/ℓ)	F.N. (sec)	蛋白含量 (%)	灰分含量 (%)
847	412	12.4	1.28

4 技術の内容

表4 耕種概要など

は 種			土性	施 肥 (kg/10a)				根雪始	雪 腐 病 防 除	
期	量	方 法		区 分	窒 素	磷 酸	加 里		時 期	使用薬剤名
9/15~20	7~8kg/10a	畦幅 15cm	埴壤土	基肥	4	8	5.2	11月28日	10/27 ~ 11/10	ラ シ マ ンFL フロンサイド水和剤
				追肥						
				起生期	8					
				幼形期	4					
				止葉期	4					
				出穂期	4					

表5 病虫害防除等

除草剤散布		融雪促進		融雪期	病虫害防除 (植物成長調整剤等)		
時 期	剤名・散布量	時 期	資材名・散布量		対象病虫害防除	時 期	使用薬剤・散布量
5月16日	ガレース乳剤 250cc トレファノサイド 100cc MCPソーダ塩 300g、 アクチノール 200cc	3月9日	防散融雪材 タンカル 60kg	3月30日	眼紋病	4月23日	ユニックス顆粒水和剤 500倍
					赤かび病	6月8日	シルバキュアFL 2000倍
					アブラムシ	6月8日	エルサン乳剤 1000倍
					赤かび病	6月20日	トップジンM水和剤 1000倍
					赤かび病	7月5日	シルバキュアFL 2000倍
					アブラムシ	7月5日	エルサン乳剤 1000倍
					赤かび病	7月15日	チルト乳剤 1000倍

5 技術の特色

(1) 土作り、透排水性の工夫

- ①作土の反転と硬盤層の破碎のために、構成員は毎年プラウ耕（耕起深25~30cm）を実施することを決めており、実行している。
- ②必要に応じて、構成員が独自に開発した無材暗渠トレンチャーを使用することで透排水性改善を図っている。
- ③小麦収穫後には、緑肥（ハイオーツやチャガラシ）を作付けし、すき込むことで連作障害の軽減を図っている。

(2) 土壌改良

毎年土壌診断を行い、適正pHを保ち、加里の増減を図ることを構成員内で決めて実行している。

(3) 輪作の工夫

小麦の過作を防ぐため、なたね栽培を取り入れ輪作を行っている。

〈輪作体系〉

なたね→小麦→小麦→大豆→小麦（間作）→小麦→なたね

(4) 播種の工夫

①適期播種である9/15～9/20の間に播種を行っている。

②密植にならないように、毎年、千粒重から播種量を算出し適量播種に努めている。

(5) 防除の工夫

常に作物を観察し、適期防除に努めている。

(6) 施肥の工夫

作物の観察を徹底し、茎数や茎葉の葉色を見ながらこまめな追肥を行っている。

(7) 収穫・乾燥・調製の工夫

①普通型コンバイン3台を使用し、水分が低下するまで（目標水分20%）極力ほ場に入らず、収穫後の乾燥時間の短縮を図っている。

②比重選別機を使用せず、ライスグレーダーを使用して製品調製を行っているが、高い調製能力を持って比重選別機以上の製品率を高めている。

③美唄麦作営農組合の構成員だけでなく、他の生産者からも収穫や調製の受託を行っているが、それらを含めても製品歩留まりは常に90%以上を保てるよう、センター内で勉強会を開くなど周りの生産者に技術指導を行っている。

④水分測定で収穫適期の把握を行っている。

⑤二段乾燥を実施し、品質の向上を図っている。

6 その他

(1) 構成員全員が全面畑作に転換している。そのため、共同での収穫や播種時期を揃えるといったことが可能になっている。

(2) 普通型コンバイン3台の所有の内、2台は中古のコンバインを購入し、自分達でメンテナンスをしながらコスト低減を図っている。また、その他の共同所有の機械についても、ほとんど自分達で保守管理をしている。

(3) 実取りコーンなどの新規の作物の導入を検討している。現在、なたね栽培を取り入れている構成員もいる。今後は、大豆との交互作だけでなく、新規作物も取り入れた輪作体系を構築していく予定である。

(4) 栽培管理上の決まり事（土作りなど）があり、構成員全員が技術向上に取り組んでいる。これにより、構成員の収量は常に地域内で上位に入っている。

(5) 構成員以外の受け入れも行っており、受け入れ先の収穫も行っている。これにより、収穫物の水分が一定になり、乾燥作業の省力化・低コスト化になっている。

（ 執筆者名：空知農業改良普及センター 普及職員 橋下 愛 ）
JAびばい 営農販売部米麦課 課長 新谷 光昭